

より高く
より広く
より大きく



第36号
日本詩吟協会総本部
発行編集委員会
〒125-0053 東京都葛飾区鎌倉1-2-4 (岡村)
TEL 03-3673-9237
携帯 090-7273-7735
FAX 03-3673-9237
郵便振替 00170-1-72817



所感

日本詩吟協会理事長

岡村心蒼

渋谷スクランブル交差点は世界で有数な交差点として、日本観光



ご挨拶
日本詩吟協会総裁 富澤龍吟

「第三十六回 日本詩吟選手権大会」も無事終了致しました。各予選会にお手伝い下さった会員、

スタッフの皆様御苦労様でした。

礼申し上げます。ありがとうございました。

この年異常気象のため、我々の生活環境が大きく変わつて参りました。昔ながらの「三寒四温」、暑さ寒さも彼岸まで、の言葉が死語になり、今や熱中症、線状降水帯、ゲリラ豪雨、クーリングシェルター等と新しい言葉が生まれました。世界にも思いもかけない災害がお起つております。今やこの地球はどうなつてしまふのでしょうか。

吟詠を志す私達は腹から声を出すことによって健康な身体を保つております。又、何事にも対応できる身体を持つております。どうぞ環境の変化に負けず詩吟の練習の成果を「第三十七回選手権大会」にぶつけて下さい。お待ちしております。

自分の事より相手を大事に思う、ゆずり合いの精神こそが驚異の交差点実現の源であると私は思います。さて、「吟が上手くなりたい」という願いはどなたでも思うところでしょうが「ただがむしやらに」稽古を重ねるだけでは効果は望めません。自分に足りないところは何なのか? 気づくことが大事です。上達のための気づきは上手い吟者からだけではありません。下手な吟からも十分気づきの要素があります。どこが良くてどこが悪いのか? キーの高低に惑わされることなく、聴く人の心に感動を与える吟詠の魅力は「鍛錬された吟声・音程・節回し・読み・詩心」そして絶妙な間合いから生まれる豊かな表現力が的確な詩心を生み、聴く人に感動と希望を与えます。

私はコンクールのおり舞台で何度かこの「気づき」のお話をさせて頂きましたが日常生活の中でも「気づき」は大事な事だと思います。家庭でも仕事先でも人間関係があります。自分の言葉や行動が相手を傷つけたり悲しい思いをさせたりしてはいないか。

トリセツ(各種機器等の取り扱い説明書)を人間に当てはめるのは失礼かと思いますが、人にもそれぞれに生き方トリセツがあります。心を広くゆとりを持つて、互いのトリセツを正しく理解し認め合つて付き合つことが和やかな生活実現の源であると思います。

の名所になっています。一度に千人もの人が四方八方からトラブルもなく交差点を渡る光景が外国人には驚異に見えるらしい。

私と同年代の方なら同じ記憶が皆さんあると思いま

すが幼少の頃「他人様に迷惑をかけることはしてはならない」と何度も親から諭されたことを思い出します。

「第三十六回」日本詩吟選手権大会開催

文部科学大臣賞

岩田裕美さん(東京)

日本詩吟協会総裁賞

大河内美沙さん(東京)

日本詩吟協会理事長賞

三浦聰子さん(東京)



日本詩吟協会会长賞
浦聰子さん



日本詩吟協会総裁賞
大河内美沙さん



文部科学大臣賞
岩田裕美さん

第三十六回、日本詩吟選手権全国決選大会(主催一日本詩吟協会総本部)は東京都墨田区曳舟文化センターホールに於いて、四月二十九日(祝)開催。審査員には著名な吟詠家と漢詩家「鷺野正明先生」、尺八奏者でお馴染みの岡田純明氏。声楽家ボイストレーナーの堀野温代先生をお迎えした豪華審査員で構成された。

競吟は全国の予選大会を勝ち抜いた百二十五名によって競われたもので、結果は優勝文部科学大臣賞を岩田裕美さん(宏升流宏升会)、準優勝日本詩吟協会総裁賞は大河内美沙さん(関西吟詩文化協会快川吟詠会)、第三位の日本詩

吟協会理事長賞に三浦聰子さん(哲泉流日本吟詠協会天翔会)がそれぞれ受賞した。

尚、一般成人の部競吟の前に幼少年の部(幼年から小学生までと中学高校)の部の競吟が行われましたが、参加者の減少が続いている。今回も、全体で五名と少人数でのコンクールとなってしまいました。吟界の将来を担つて行く、貴重な宝の幼少年ですので子供たちが魅力を感じてコンクールに応募出来る環境作りを今後運営本部として考えて行きたいと思います。

本数別上位優秀吟者が最終審査に進出した。

吟じ易い伴奏曲(協

会指定十三曲「静・麗・雄・烈・哀・



各会派のものとし、更に公平な審査を考慮し一次審査は本数別審査

第36回 日本詩吟選手権全国大会成績表

日時 令和7年4月29日（祝） 会場 東京都墨田区曳舟文化センターホール

(最終決勝) (第1位) 文部科学大臣賞

(第2位) 日本詩吟協会総裁賞

(第3位) 日本詩吟協会理事長賞

一般総合の部

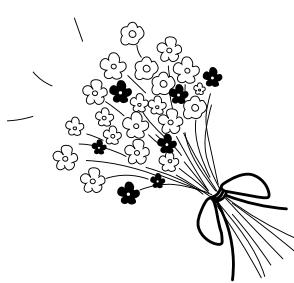
順位	出吟者名	審査委員長						合計
		富澤龍吟	鷲野正明	清水錦洲	志田岳紫	恵 聖	岡田純明	
1	岩田 裕美	92	94	93	94	92	92	651
2	大河内美沙	92	95	91	93	90	92	648
3	三浦 聰子	90	95	92	94	92	91	648
4	原田 理絵	90	95	92	91	90	92	645
5	原 京子	92	94	92	92	89	90	644
6	武藤 善助	93	91	91	90	89	92	639
7	田邊志郎	88	92	91	91	91	89	637
8	森 稔	90	91	89	92	89	90	635
9	古木 和子	91	92	91	88	89	88	634
10	湯口 正明	90	92	89	92	92	87	634

※同点の場合は○審査委員長の点数が高い方を上位とする

本数別優秀吟者の皆様



九八七六五 男三二一水3
 四 本本本本 本本本本水2
 五 本本本本 本本本本水1
 右 より
 三 岩原古安富湯田渡福中
 浦田木澤口邊辺島山
 聰裕京和 龍正志喜善勲
 子美子子藤吟明郎保雄雄
 さんさんさんさん總裁さんさん



幼少年の部の皆様

日本詩吟協会定期総会

日 時	二〇二五年八月十七日 (日)
会 場	曳舟文化センター
総会成立宣言	会員総数
会員総数	一〇七名中、出席六七名、委任状二三名。会則第七条四項により総会成立を確認。
会員総数	山本副理事長の司会により、金子相談役の開会の辞、富澤総裁の挨拶の後、岡村理事長の議長のもとで、各議案につき、審議が行われた。
会員総数	山本副理事長の司会により、金子相談役の開会の辞、富澤総裁の挨拶の後、岡村理事長の議長のもとで、各議案につき、審議が行われた。
会員総数	本総会に於ける審議事項の要点は以下の通り。
会員総数	一、二〇二四年度の事業、収支及び監査報告
会員総数	二、二〇二五年度の事業及び収支計画
会員総数	三、各開催事業の会計報告
会員総数	四、入退会者の報告と新入会者の自己紹介
会員総数	五、新運営役員（大会等）の報告
会員総数	以上の件につき、審議が行われ、滞りなく承認された。
会員総数	議長解任後、各担当より、以下の報告がなされた。
会員総数	一、今後の基本運営方針の説明
会員総数	二、『入会申請書』の取り扱い
会員総数	三、細則改訂の説明
会員総数	四、所属地区別一覧表の確認
会員総数	五、伴奏CD、徽章のお販売実績と在庫状況の説明
会員総数	六、ホームページの変更点の説明
会員総数	七、会員名簿記載内容の確認と加筆・修正

今後の基本運営方針の中で、岡村理事長より、決め事の合議制、創立四〇周年記念事業の企画、吟詠カルチャーの定着と発展等について説明があり、且つ、家族を含めた充分な健康管理を行い、会員の親睦を深め、吟詠の進歩への永続的な努力を積み重ねて、より楽しい吟詠生活を築きあげられるよう、取り組んで行きたい旨の意欲的なお話があつた。

（記）三浦暁泉

（評価4 やや良い）
 （評価5 大変良い）
 （評価3 普通）
 （評価2 やや悪い）
 （評価1 大変悪い）

（例）五項目全部3の場合（3×5で十五点）基礎点六十八をプラスすると八十三点となります。

♪基礎点の六十八点は出吟者全員に与えられます。

♪五項目の数字評価により、どの項目が自分に足りないのか、お稽古の目安になると思います。

五項目五段階評価について

理事長 岡村心蒼

日本詩吟協会では、昨年の「日本詩吟選手権コンクール」各地区予選大会から出場者にお渡ししている「言葉評価によるコメント」を「五項目五段階数字評価」に変更いたしました。

五項目内容

吟声・腹式発声で体のシン（芯・深・伸）から発生される鍛え抜いた張りのある高音。

音・響きと魅力ある低音。

音程・吟じ出しから終わりまで一定した音程であること。

節回し・各流派で定められた節調を正しく

マスターし流れの良い素直で心地よいリズム感であること。

読み・強弱緩急があり違和感（発生の誤り）がなく自然で美しい日本語であること。

詩心・詩の内容を正しく深く理解をして喜怒哀楽の表現がされている。聴く人に感動を与える吟である。

審査講習会に参加して

朝から強い日差しが照りつけ、猛暑に包まれてのコンクール審査講習会が、五十名の参加者で曳舟文化センターで開催されました。講習会に於いて、コンクールの詩文提出の件について、課題詩三十題を導入し、作業の簡素化を図る目的と、課題詩を選んだ方は詩文の提出なしとなりました。また課題詩とは一字でも違った場合など、従来通りの詩文を提出をするようなアップデートがありました。長音の発声については、色々とご指導があり、中々難しい日本語の約束事など特に「う」と「お」の発音など、コンクール進行中瞬時の採点の判断が要求されると言ふことです。新採点法では、テープに収録された五名の方の模擬吟詠を題材とした吟を採点し、各講

【1～5段階】

（評価1 大変悪い）

（評価2 やや悪い）

（評価3 普通）

（評価4 やや良い）

（評価5 大変良い）

（例）五項目全部3の場合（3×5で十五点）基礎点六十八をプラスすると八十三点となります。

♪基礎点の六十八点は出吟者全員に与えられます。

♪五項目の数字評価により、どの項目が自分に足りないのか、お稽古の目安になると思います。

習者にそれぞれの評価のコメントを聞きましたが、観点が変われば点数も変わってくる。そんな印象を受けました。点数で評価することが大変な作業である事は間違いありませんが重要な役割を占めています。

また、この度は講習会に参加でき、誠に有難うございました。吟道の奥深さに改めて触れる事が出来心より感謝しております。色々と参考になるお話を頂き、今後の糧に出来ればと意義ある講習会でありました。

(湯口岳政)

日本詩吟選手権大会

○東京西部地区予選会

日本詩吟選手権首都圏東京西部地区予選会は、二〇二四年十月五日中野区野方区民ホールにて開催された。土曜日に会場を確保し、多数の応募を期待したが、諸事情により、三十九名の応募者数となつた為に、午後からの開催となつた。競吟は武田誠風審査委員長他、四名の審査員により慎重審査され、十九名の入賞者が首都圏決選大会へ進出を果たし、無事に予定時間通り終了することが出来た。出吟者の皆様の熱吟、競吟進行へのご協力と役員の皆様の献身的なお力添えに深く感謝申し上げます。

本年は十月四日の週末土曜日に同じく、中野区野方区民ホールで開催致します。多数の申し込みをお待ち申し上げております。

(三浦暁泉)

○千葉南部地区予選会

昨年は「発声室」の案内が不明瞭との声が聞かれましたので、(二階の奥にあつたため)今年は案内表示を分かり易く致しました。又、プログラム掲載の「芳野懷古(藤井竹外・梁川星巖)、詩文内容違いにより誤読とされる事態発生で、主催者側としては予想もせぬ事でした、審査長に提出された詩文とは違うものなので、出吟者当人は無念の失格、周囲の方にもご迷惑をお掛けする事になりました。申し込みは電話にて受付とのこと、今後は申し込み手順を守つて慎重に受け付けることが基本と思いました。

今後とも皆様方のご協力ご支援を賜りました。多くお願い致します。

(中野吟紫)

○千葉北部地区予選会

令和六年十月二十五日(金)常磐線我孫子南口「我孫子けやきプラザ・ふれあいホール」に於いて、四十四名の応募者があり開催の運びとなりました。

各地域から二十五名の役員のご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。特に遠い栃木県から藤田吟孜先生も、審査員として駆けつけて頂きました。感謝申し上げます。会場は我孫子駅直結の好条件でございまして、今後も常磐線沿線のみならず、東京近郊、千葉、埼玉、茨城などの吟詠愛好者の勉強の場としてこれからも、続けて参りたいと願っております。

昨年は「発声室」の案内が不明瞭との声が聞かれましたので、(二階の奥にあつたため)今年は案内表示を分かり易く致しました。又、プログラム掲載の「芳野懷古(藤井竹外・梁川星巖)、詩文内容違いにより誤読とされる事態発生で、主催者側としては予想もせぬ事でした、審査長に提出された詩文とは違うものなので、出吟者当人は無念の失格、周囲の方にもご迷惑をお掛けする事になりました。申し込みは電話にて受付とのこと、今後は申し込み手順を守つて慎重に受け付けることが基本と思いました。

令和六年十一月二十八日(木)『さいたま市民会館おおみや』で開催されました。今回は八十七名のご出吟を頂き、大変嬉しく感謝申し上げます。

(長谷川聖漲)

○さいたま地区予選会

会場も昨年より引き二度目でもあり、落着いた対応が出来たかなと思っております。ご協力頂いた役員の先生方深く御礼申し上げます。

(千葉龍愛)

市民センターで開催しました。七十三名の応募者があり、昨年六十四名、一昨年七十一名と、応募者が減る事なく開催出来ましたのも各先生方の協力によるものです、感謝致します。

今回から女性の部で4本の応募者が出てきました。予選会にて、いつも気になるのがマイクの使い方です、マイクとの距離はコアシ一つ分がベストですが多くの人は離れていて、(高得点を取られる人は皆ベストの状態)、いくら吟が上手でも審査員には届きません。(マイクを通して返しの自分の声を聞くようにして下さり)。もう一つ、顔が上下する人です、上下によりマイクに声が入らず言葉が不明瞭になります(鏡を見ながら練習すると直ります)。次回もあふれるサービス精神で多くの人の応募をお待ちしております。

○神奈川地区予選会

第三十六回日本詩吟選手権首都圏神奈川

地区予選会は、神奈川地区予選会としては初めてとなる「藤沢市藤沢公民館・労働会館等複合施設Fプレイス」(藤沢市本町)において、令和六年十二月十三日(金)に、開催されました。

従来の横浜市から藤沢市への会場変更については、湘南地区の詩吟爱好者にも、日本詩吟協会の音程別審査や指定吟題ではない出吟者的好きな吟題での吟詠コンクールの普及及び周知を図りたいとの思いでの開催でした。

しかし、充分な宣伝や詩吟爱好者への周知が不足したことから、出吟者は、昨年の出吟者よりは、十六名も少なくなり、四十七名です。

ただ、出吟頂いた皆様は、緊張と会場の熱気に包まれながらも、日ごろの成果を發揮されていました。

予選会は、出吟者の皆様のご協力と役員の先生方のご尽力により、ほぼ予定どおりに進行し、各本数別の入賞者は、二十四名を選出して、無事に終了することが出来ました。なお、来年度には多数の出吟者に参加願え
るようとに、心を新たにいたしました。

(山本宏晴)

○東京東部地区予選会

令和七年一月十日(金)昨年に続いて江東区亀戸カメリヤホールに於いて三十六回目の予選会を開催致しました。この時期はインフルエンザ等の流行で出吟者の皆様は体調管理に大変ご苦労された事と拝察致しましたが、いざコンクールが始まると熱気むんむんの吟

声がホールに響き、あつという間に九十六名の出吟で行いましたコンクールも予定通り終了する事が出来ました。
結果として四十八名の入賞者が次の首都圏決戦に駒を進め、更に全国決戦での御活躍を祈念申し上げたいと思います。
終わりに運営にご協力頂きました役員の皆様、大変有難うございました。

(松宮岳謳)

○福島県決戦大会

第三十六回福島県決戦大会が令和六年十一月二十四日(日)に郡山市中央公民館多目的ホールにおいて行われました。

今回出吟者は七十一名と前年とほぼ変らずその内全国大会出場者十七名が選出されました。

本部より、審査委員長として岡村、心蒼先生、審査委員に松宮岳謳先生、野口撰粹先生が遠路よりお越し頂き審査をしていただきました。恒例となつております先生方には吟詠をご披露いただき、華を添えていただきました。
ありがとうございました。
(渡辺鳳堂)

(渡辺鳳堂)

○栃木県決戦大会

令和六年十一月十九日宇都宮市南図書館「ザザンクロスホール」において八十一名の出吟エンタリーを頂き開催になりました。ホールは雀宮駅に隣接し田園の中にある素晴らしい会場です。

栃木大会は北は宮城・福島そして南は東京、神奈川、埼玉と参加を頂き、皆様が「為になつ

た、気持ちよく吟じられた、又出たい」と思つていただけるよう、温かい雰囲気の中での開催になるよう微力を尽くして参ります。

今後は他地区の大会にも出来るだけ参加し、栃木大会に生かしてまいりたいと思っております。出吟の皆様、地元の先生方、遠路応援頂いた皆様、範吟を頂いた皆様、感謝申上げます。

(藤田吟攻)

第三十六回日本詩吟選手権大会

首都圏決選大会を終えて

去る、三月十六日(日)曳舟文化センターホールに於いて首都圏決選大会が行われました。

首都圏六地区予選会から選出された総勢一八一名の方が、全国決選出場に思い馳せての決選大会でした。

結果、八十五名の方が全国出場権を得たことが出来ました。誠におめでとうございました。
本年は十二支では巳歳ですが、干支では己巳(きのとみ)に当たります。己は植物を指し種が土の中で育まれ、芽が出て大きく成長致し花を咲かせ物事が成就する年だそうですね。全国決選大会では是非大きな花を咲かせてください。

審査員平均点が八十八を得ると入賞枠以外で入賞となります。今回は入賞枠外の方が六名となり、一点を競いハイレベルな決選大会だった事が伺えます。
結果を見て審査員、採点に大変ご苦労された事と思います。今回は涙を飲んだ方には次回を期して、さらに練習を重ねて又の挑戦を期待したいと思います。

日本詩吟協会の役員の皆様も大変お疲れ様でございました。

日本詩吟協会の本数別コンクールは、益々人気が高まり九州でも話題になつて来ています。

声の低い方も、自分の本数で全国優勝を勝ち取る事が出来他では有り得ないコンクールです。

年々競吟レベルが上がる中、予選会応募者の減少もあり原因は様々な要因があると思います。又、会場の確保が厳しく今後の大好きな課題も見えてきております。

出場された皆様、応援の皆様、大会運営の役員の皆様、そして選手を送つて頂きました各流派会派の諸先生方、御協力有難うございました。

(武田誠風)

華やかに！ 爽やかに！

新春吟詠のつどい

令和七年一月十一日（土）江東区深川江戸資料館ホールにおいて、「新春吟詠のつどい」を開催いたしました。

会員 四十四名 一般参加 七十八名

詩舞

伴奏 尺八 岡田純明先生

琴 玉井歌美先生

の構成で行われ、江戸資料館では新春にふさわしく楽しげな華が咲き、役員の働きかけにより、福岡より日本吟道奉賛会福岡地方本部副本部長 翠風流朗詠道二世宗家 亀田

鶯風先生が出席され「吟」披露いたしました。遠方よりのご来賓により一層華やかな会になりました。

年々会員の参加が少なくなります。今後、いつの日か天土に輝く七色の虹が見える日が必ず来ると、年の始めに皆で一年の計を確認したいですね。

大勢のご参加ご協力を感謝申し上げます。

(南雲黎晶)

寄稿

感謝状と文団連会長

令和6年11月3日（日）文

化の日に、藤沢

市教育委員会

より感謝状を

授与するので式

典に出席して欲

しい旨の通知が

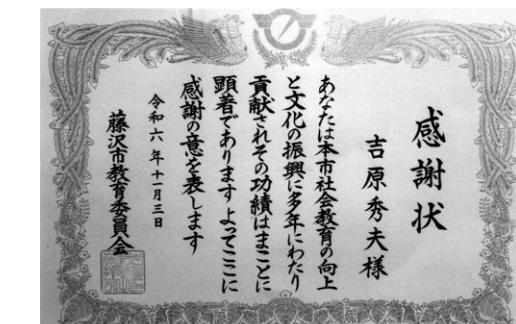
届きました。

表彰の理由は

『社会教育の向

上と文化の振興

に貢献された』



(吉原秀峰記)

催しのご案内

- 日本詩吟協会総会・審査員講習会
期日 令和7年8月17日（日）
会場 南雲黎晶
- 第37回 日本詩吟選手権大会
期日 令和7年10月4日（土）
会場 中野区野方区民ホール
- 東京西部地区予選会
期日 令和7年10月24日（金）
会場 我孫子けやきプラザふれあいホール
- 神奈川地区予選会
期日 令和7年11月7日（金）
会場 横浜市関内ホール（小ホール）
- 千葉北部地区予選会
期日 令和7年11月14日（金）
会場 横浜市関内ホール（小ホール）
- さいたま地区予選会
期日 令和7年11月22日（土）
会場 さいたま市民会館おおみや
- 千葉南部地区予選会
期日 令和7年11月23日（金）
会場 船橋市勤労市民センター
- さいたま地区予選会
期日 令和7年11月23日（金）
会場 江東区文化センター
- 福島県決選大会
期日 令和7年11月3日（月）
会場 郡山市中央公民館
- 栃木県決選大会
期日 令和8年1月25日（日）
会場 サザンクロスホール
- 日本詩吟選手権大会
期日 令和8年4月4日（土）
会場 芦原文化センター
- 日本詩吟選手権大会 全国決選大会
期日 令和8年5月17日（日）
会場 芦原文化センター
- 新春吟詠のつどい
期日 令和8年1月11日（日）
会場 深川江戸資料館劇場
- 日詩協創立記念大会
期日 令和8年2月4日（水）
会場 深川江戸資料館劇場

寄稿

文部科学大臣賞に輝いて!!

岩田裕美

この度は、文部科学大臣賞という栄誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。大会役員の先生方、審査員の先生方、大会運営に関わつて下さつたすべての皆様に感謝申し上げます。

私が詩吟と出会つたのは、二十代の頃に大阪で演劇をしていたのがきっかけです。当時は役者としてプロフィールを書く機会が多かつたのですが、毎回「特技」の欄で手が止まつていました。得意なことなら何でも良いわけではなく、プロフィールを見た人から「特技を見せて」と言われたときにすぐ披露できるようなものがよく、楽器演奏などよりも自分の体を使って披露できるものが望ましいです。日舞やダンスなど色々考えましたが、その場ですぐ披露できるという観点ですと、歌や歌に近いジャンルが良いのではと考えました。ただ、一般的なポップス歌唱が得意というのでは目立てないので、「周りで誰もやつてないようなものを探そう!」と思い、邦楽のジャンルを探しました。そこで見つけたのが詩吟だつたのです。

思い立つたが吉日、早速家から近い教場を見つけて門を叩きました。どこかの詩吟の先生の娘や孫でもなく、誰かの紹介でもない二十代の女性が突然入会したことで、当時の

教場の方々は本当に驚かれていました。

その後、念願の特技を手に入れて演劇活動を数年続けていましたが、役者を職業とすることは考えられなかつたので、演劇は辞めて詩吟だけが残りました。

大阪では、醉心流星華吟詠会に十年ほどお世話になりました。入会して数年後からは池田哲星宗家の直弟子となり学んでいましたが、生活拠点を東京へ移すことになつたため醉心流を退会し、心機一転、東京で海老澤宏升宗家の宏升流宏升会に縁をいただくことになりました。

そこから日本詩吟選手権大会に出場する機会を頂くようになりましたが、出場初期の頃は、全国大会に選出頂いても最終決戦にはなかなか出られませんでした。その後コロナ禍でコンクールが中止となりましたが、この間にも海老澤宗家の教場に通つて多くのご指導を賜り、自分の吟と向き合つ時間をたくさん確保することができました。

その甲斐あってか、コロナ禍明けの大会からは全国大会の最終決戦に出られるようになります。コロナ後三回目の挑戦で今回の結果を頂くことができて本当に嬉しく思います。

ですが多くの方々が感じるよう、コンクール優勝は決してゴールではないと私も感じています。

います。そして優勝者には「責任が伴う」と思っています。コンクール出場の場合は、舞台で日頃の成果を発揮できてもできなくてそれは自分だけの事情ですが、優勝した今後は、聴いて下さる皆様から「このような吟士がいる日本詩吟協会に入りたい」と思つて頂けるような吟に少しでも近づけるよう、より一層精進する責任が伴うと感じました。まだまだ若輩者ですが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら日々精進する所存です。

今回の結果はもちろん海老澤宗家に報告させて頂きましたが、醉心流の池田哲星宗家は昨年逝去せれてしまい、今回の結果を報告することは叶いませんでした。

池田宗家から、以前「何のために詩吟をやつているの」と聞かれたことがあります。そのときは、少し考えてこう答えました。「自分の人生を豊かにするためです」と。

詩吟をしていると、嬉しかつたり悔しかつたり落ち込んだりと色々あります。その色々を経てたどり着いた境地というのは、きっとその人にとってのゴールになり得るのではと思ひます。また詩吟を楽しむ中で仲間や友人が増えていくのも、その人の人生を豊かに彩るものとなるでしょう。私もこれから自分の人生を豊かなものにできるよう、いつも感謝の気持ちを忘れずにいつまでも詩吟を楽しんでいけたらと思つております。

最後になりますが、素晴らしい賞と共に今回の寄稿の機会も頂き、本当にありがとうございました。

日本詩吟協会の新たな企画

更に上質な吟詠を求めての講演会

講師 声の指導者堀野温代先生

(オペラ歌手) (声楽家)

詩吟ボイストレーナーとして

二〇二五年一月十一日、『新春吟詠の集い』

を拝聴させて頂きました折、大変驚きました。

それまで耳にしたことがないかった素晴らしい

吟詠をきかせて頂いた為でございます。一月

十八日の詩吟ボイストレーニングセミナーが

頭を過り私の力で大丈夫であろうかと不安に

なりました。この事から私が今まで歩んで参

りました道を思い出し、『さあどうすれば良

いか』毎日考え始めました。すると突然、『オ

ペラの舞台やコンサートのつもりでやつてみよ

う』と心に浮かんでまいりました。思い起せ

ば十年前初めて詩吟のボイストレーニングの

ご希望を頂き、それから五つの流派の方々に

ご縁がありました。ラジオ番組『漢詩を詠む』

が好きで毎日聴いていた事が私を勇気付けて

くれたのです。初めてのレッスンの時、『声』

を出す事においては、西洋も東洋も違いはな

いという考え方のと、色々な話をし、まず呼

吸法がいかに发声に重要な発声がある方で

数ヵ月と進む中で私にとって詩吟がヨーロッ

パの发声テクニックに合い通ずるものが見え

はじめました。大声のみを出す癖があるので

したので、『大』ではなく『響』の声づくり

ラシードを組み合わせた发声訓練、息を運ぶ身体訓練、それが文字の示す風情を作るに通ずる事、そうすれば喉は痛くならない、体は揺れない、集中力が付く等々数限りなく試みるレッスンでした。結果コンクールで三位入賞なさいました。この方のおかげで私は詩吟ボイストレーナーになれたと思っておりますので、感謝致しております。ここで少し私の事をお話し致しましょう。音楽大学卒業後あるオペラ団体の研究生として勉強をし、28歳の時イタリアのミラノに3年間留学しました。そこで最初にショツクを受けたのは、歩き方の美しさでした。もう、ここがすでに違うのだと!その後は街を歩く時、一人人物を決め、その後姿を觀察し、しぐさ、表情、角度等男性も女性も、電車内、レストラン、カフェ、劇場どこでも觀察しました。『見る』ではなく『観』でした。帰国後は呼吸法修得のため身体訓練に費やす日々となり、バレエ、ヨガ、ボクシング、日舞、舞蹈、俳優達との訓練、もう一つ読書です。その中で、音大受験時から留学中に勉強した全曲を全部やり直したのです。七年かかりました。

呼吸は見えません。しかし呼吸法の訓練は身体に現われますから、良し悪しが判断できる様になるのです。この様な生活の中で、私独自の呼吸法が生まれました。呼吸法の追求は終りません。今こうして字を書いている時も、丹田呼吸をしながら、息を流しながら書いていたのは李白の『早に白帝城を発す』の転句『両岸の猿声』の、猿のもの悲しげに啼く声を、生で聴かせて頂き、感銘を受けました。この後、故事に因み、捕えられた子猿を追つて力尽き、息絶えた母猿の腸は、ちぎれていたと言ふ「断腸」の由来に、私はこの詩を吟ずる時、この話しが思い浮かべることでしょう。

第一部の呼吸发声法では、今まで腹式呼吸第でございます。最後に、三月十六日に行われました。日本詩吟選手権大会を拝聴させていただきました時、目を見張るばかりの皆様に鳥肌が立ちまして本当に感動致しました。又、日詩協への寄稿の依頼を戴きましたから、数冊の日詩協便りを拝読させていただけました。この方のおかげで私は詩吟ボイストレーナーになれたと思っておりますので、感謝致しております。ここで少し私の事をお話し致しましょう。音楽大学卒業後あるオペラ団体の研究生として勉強をし、28歳の時イタリアのミラノに3年間留学しました。そこで最初にショツクを受けたのは、歩き方の美しさでした。もう、ここがすでに違うのだと!その後は街を歩く時、一人人物を決め、その後姿を觀察し、しぐさ、表情、角度等男性も女性も、電車内、レストラン、カフェ、劇場どこでも觀察しました。『見る』ではなく『観』でした。帰国後は呼吸法修得のため身体訓練に費やす日々となり、バレエ、ヨガ、ボクシング、日舞、舞蹈、俳優達との訓練、もう一つ読書です。その中で、音大受験時から留学中に勉強した全曲を全部やり直したのです。七年かかりました。

寄稿

第一回 漢詩・呼吸发声法

古木和子

員の皆様方に心より感謝申し上げます。員の皆様方に心より感謝申し上げます。

四月吉日

第二部の鷺野先生の講演の中で印象深かったのは李白の『早に白帝城を発す』の転句『両岸の猿声』の、猿のもの悲しげに啼く声を、

生で聴かせて頂き、感銘を受けました。この後、故事に因み、捕えられた子猿を追つて力尽き、息絶えた母猿の腸は、ちぎれていたと言ふ「断腸」の由来に、私はこの詩を吟ずる時、この話しが思い浮かべることでしょう。

第一部の呼吸发声法では、今まで腹式呼吸

野先生が、私の手を先生の腹部と腰に押し当てて呼吸の圧力を実感させて下さいました。実際に、ご指導頂くと、丹田をより意識する様になりました。漠然としていた呼吸法を気付かせて頂くことが出来ました。又、先生自ら客席に下りてのご指導に感服しました。これからも、より一層詩吟に情熱を注ぎたいと思います。鷺野先生、堀野先生、有り難うございました。この企画にご尽力して下さった日本詩吟協会役員の先生方、有り難うございました。次回も楽しみにしています。



◆予告のご案内◆

令和八年二月四日(水)詩協創立記念日に深川江戸資料館劇場において芸術祭典に変わるイベントを計画しております、会員相互の親睦を深め楽しめる会を催したいと思います。ご応募宜しくお願ひ致します。

事業部

地区だより 令和七年六月五日に「吟と舞の調べ」を開催。いろいろの方面の御協力を得て、今回で七回目を迎えました。吟道櫻風会は毎年、美浜文化ホールで、発表会を行つておりましたが、新型コロナの為、公民館、コミニティーセンターが、約一年間使用できず会員一同、淋しい限りでした。少しずつ教室の使用が出来る様になりました時に、千葉市穴川コミニティセンターより、皆さんが元気になる行事をとの事で、会員一同が賛成で「コロナ対策」をして始めたのが、「吟の調べ」でした。主催は穴川コミニティセンター、共催が吟道櫻風会でスタート。当初は、会員のみ、そしてポスターを見て来館して下さった、近隣のお客様で、舞台が出来ました。以後回を重ねて行く事になり、以前に来て頂きました先生方に、お声をおかけしまして、現在に至ります。日本詩吟協会、クラウン吟友会の先生方、舞の千峰吟会の先生方が、毎回会に華を添えて頂き大変感謝致しております。舞が入ったので、タイトルも「吟と舞の調べ」となりました。今後も詩吟のすばらしさ、楽しさを発進出来る様に、会員一同、向上心を忘れず年令を忘れてがんばって行きます。

地区だより 松 鐘 櫻 風 令和七年秋の発表会「吟と舞の調べ」に向い各教室練習にはげんでいます。今回も、先生方に吟、そして舞で、華を添えて頂ける様に会員一同、前向きに、そして楽しみにしております。

「吟と舞の調べ」を開催

松 鐘 櫻 風

「華の会」に参加して

靄 間 美 風

第二十三回こしがや能楽堂において日本伝統文化の祭典「華の会」が、四月十九日(土)二十日(日)の二日間開催されました。「四季の風」会主武田誠風先生が、本年度から歴代五代目の会長を受け継がれました。

全国には、約八十の能舞台が存在する中、剣詩舞・日舞・書道・茶道・箏曲・三味線・詩吟など、日本伝統文化を発表できる舞台は、全国で九ヶ所です。此のこしがや能楽堂は、埼玉県唯一の屋外能舞台です。隣接して日本庭園「花田苑」があり、季節の花を咲かせていました。

参加者三十名。吟じられる先生方が、鏡の間に出て出番を待つ。橋掛かりを歩き本舞台に立ち吟じ始める。各自各様の吟題で吟じる吟声は、長年の経験が産みだした情感豊かで響きがあり、聴いていると情景が見えるようでした。各吟詠に華を添えて頂いた華輝社中の

で始めて十年が過ぎました。吟に対する息込みが、若返りとの事で……。

令和七年秋の発表会「吟と舞の調べ」に向い各教室練習にはげんでいます。今回も、先生方に吟、そして舞で、華を添えて頂ける様に会員一同、前向きに、そして楽しみにしております。



舞は、艶やかで優雅さの中に華があり、吟者と一体化したような感覚を味わい、大変貴重な勉強をさせて頂きました。

今回初めて企画し取り入れた「特別番組」には、武島鳳珠先生のものがたり吟詠、松宮謳岳先生の律詩吟詠、小倉喜岳先生の三味線弾き語り吟詠、中野吟紫先生の歌入り吟詠、

金子君峰先生の民謡入り吟詠、海老澤宏方先生の歌入り吟詠、岡村心蒼先生の日本刀所作による居合吟演武が演じられました。

武田先生の元で詩吟とは何か?発声法、息の使い方(腹式呼吸)、詩吟表現などを習い始めて二月で十年目を迎えました。今回私は、岡村先生の日本刀演武を見て、剣道審査に望む為の日本剣道形を思い浮かべました。今は亡き師範が練習前に必ず言つた言葉に「礼法・着装・姿勢は大切なポイントで基本。練習・修行を繰り返すことで技術も向上する。だから基本に忠実な正しい稽古が必要だと……」初めて竹刀を持った三十六歳、四十三歳で昇段審査三段に合格。厳しい稽古を乗り越えられたのも師範の言葉に励まされてきたからです。詩吟と同時に独学できり絵も始めました。シンプルで奥深く集中力や想像力を養うことができます。剣道で学んだ経験が私の大きな糧になっています。

能舞台に立つ諸先生方から学ぶ事が多く、これから詩吟人生に生かしていきたいと思います。

吟の事は何も知らず詩吟に入りました。教場では御師匠の短い口伝指導を頂き、後は詩文についている譜付をがむしゃらに声を出してたどるだけでした。その頃は、私の詩吟を聞いた人が良いと言えばよい吟、悪いと言えば悪い出来で、自分自身で評価することは、全く出来ませんでした。そんな状況が漫然と2年程すぎた時、大会に参加する機会を頂き、試しと思い参加させて頂きました。その時の成績は覚えていませんが、散々だったと思います。その後幾度か大会に参加させて頂き、諸氏の吟を聞かせて頂くうち、詩吟は詩情の表現だなど、遅蒔き乍ら思いを強くし、極力詩文の理解に取り組むようにしました。先ず、何方もされている事と思いますが、詩文をよく読み、そしてその詩が作られたときの時代や、作者の心境や社会情勢など、想像しながら我流ですが詩情を作り、それを表現出しきよう吟ずる。これがなかなか旨く行かないが、面白いし、詩吟をやつている気分になります。

私はこのように詩文の詩情世界を創造も含めて作り、それを自分の吟で表現する。自分でいいなと思う吟をする。この試行錯誤が非常に面白い。これが私の詩吟の勉強と継続の原動力になっている、吟友との話題も膨らみます。私はこれからも、もっと楽しい詩吟の世界を見つけて行きたいと思います。

詩情で楽しむ詩吟

保岡 昌岳

寄稿

私は山形県から福島決戦大会に出場、全国大会を目指しています。

今詩吟をする上で特に大切にしていることは、自分自身がいいなと思える吟、自分が納得できる吟が出来ているかです。私は当初詩



太宰府天満宮で吟詠を

武田誠風

太宰府は九州一帯を治める政庁があつた場所。思ひぬことで三十年ぶりに九州に訪れるようになりました。博多から太宰府に向かう直通のバス「旅人」から見る風景は新幹線で六時間の長旅を忘れさせるものがありました。「武田先生」私が元気な内に太宰府天満宮で菅原道真公物語り吟詠を行いたいと、令和元年の暮れ近く武島鳳珠先生からお話をありました。事情を伺うと、道真公の五男の末柄だと即太宰府神社関係者に問合せ翌年四月に奉納吟を行う事が決まりましたが、二月のコロナ感染により中止となりました。

昨年十一月頃に武島鳳珠先生から再度お話を在り念願が叶い去る四月十一日(土)・十二日(日)に向けて各計画を致し同行者を募り二組に分かれての旅が実施されました。

空路組十名(岡村先生・武島先生・実佳さん他内仲間)が、新幹線組が四名(武田・鶴間・山口・栃木の藤田先生)とそれぞれの奉納吟を目標に九州に旅経ちました。十二日に合流致し前夜祭の会場に向かいました。

日本吟道奉賛会福岡地方本部長亀谷鶯風

先生の指揮のもと、所属先生方総出で大歓迎の中、手際よく私達一行を細やかにご案内頂き・先生方の各車で送迎迄して頂きました。

前夜祭での武島先生の物語り吟詠に、称賛の拍手でした。

九州ではこの様な吟唱や歌謡吟詠は無く、皆様は驚きました。岡村先生には内緒でした。

亀谷先生の発案で締めはこれでと「人生百年夢の坂」を司会からのご指名に岡村先生、大慌てもさすがでした。福岡の先生方は良く練習されてた様です。最後は「掘つて掘つて又掘つて」全員輪になり炭坑節を。

十二日は神前に奉納いたし、太宰府館にて奉納吟を行い、江戸中期の亀井南冥儒学者を祖として現在西日本最大の組織を持つ亀井神道流御宗家諫山岳陽先生の御案内で境内を見学。真っ先に今回の主旨を深い理解のもと立ち止まつた場所が、菅原道真公五男淳茂氏の御子社でした。有難うございました。予想外の展開で武島先生大感激 来た甲斐がありましたね。境内で名物の梅が枝餅を味わう各自々の笑顔が素敵でした。

太宰府政跡は専門ガイド内田紀生先生にご案内頂き、歴史の深さに感銘致しました。政跡の奥に坂本神社があり、ここで又感激しました。十一日バスから降り立つた場所が「令和」の万葉集巻五・梅花の歌が読まれた場所と知り境内周辺の梅が一層神々しく思えてなりませんでした。

亀谷先生には、問い合わせの電話から始まり、全く旧知の吟友の様に御応対頂き感謝です。

第37回日本詩吟選手権大会 課題吟 (30題)

1	汪倫に贈る	李 白	11	坂本龍馬を思う	河野天籟	21	時に憩う	良 寛
2	鶴鶴樓に登る	王之渙	12	酒に対する	白居易	22	常盤狐を抱くの図に題す	梁川星巖
3	京都東山	徳富蘇峰	13	舟中子規を聞く	城野静軒	23	日本刀を詠す	徳川光圀
4	金州城下の作	乃木希典	14	春暁	孟浩然	24	母を奉じて嵐山に遊ぶ	頼山陽
5	九月十三夜陣中の作	上杉謙信	15	清平調詞 その一	李 白	25	楓橋夜泊	張繼
6	九月十日	菅原道真	16	雪梅	方 岳	26	無題	阿倍仲麻呂
7	胡隱君を尋ぬ	高 啓	17	桑乾を渡る	賈 島	27	夜墨水を下る	服部南郭
8	江南の春	杜 牧	18	中庸	元田東野	28	両英雄	徳富蘇峰
9	事に感ず	于 潤	19	長城	王 遼	29	涼州詞	王 翰
10	後夜仏法僧鳥を聞く	空 海	20	早に白帝城を発す	李 白	30	廬山の瀑布を望む	李 白

編集後記

波のように現れては去っていく、日々の中に生まれる一つ一つの気持には、もう二度と出会うことはありません。吟の道も全く同様ではないかと思われます。

猛暑の日々ですが、日々もござりません。吟の道も全く同様ではないかと思われます。ります、このほどより、と一緒に作り上げていく仲間がいます、山本・神松さん、奥山・美風さんです。三人で少しでも良い「だより」をお届け出来たら嬉しいです。投稿・ご意見お寄せ下さい。(南雲、山本、奥山)